

姫野浄さんへの広がる共感からに市政を変えよう

大阪市をよくする会が総決起を訴え



開校以来1000人を超える不登校・心身症の子どもたちの“より所”となっている貝塚養護学校(貝塚養護学校ホームページより)

子どもたちの心と命を救ってきた

大阪市立貝塚養護学校・寄宿舎

閉校を強行へ

いざはじま

不登校になった子どもが学び直せる学校として知られる大阪市立貝塚養護学校の募集停止を大阪府は今年4月に強行し、数年後には廃校にする計画が進んでいる。

こころと命の学校

大阪市立唯一の病弱養護学校(貝塚市)。1948年の創立以来「療養しながら学べる学校」として、役割が大きい。1961年に初めて不登校を伴う心身症の子どもを受け入れる。現在、22人の小中学生が寄宿舎で生活を学び、これまで1000人を超える心身症の子どもたちに教育的アプローチをしてきた実績がある。

人のやさしさと命の大切さ

「なんで学校にきたんや」とわれ、私は生きることが苦しく死にたいとリストカットする毎日でした。貝塚養護学校に転校し人生が大きく変わりました。寄宿舎では団体生活、責任、独立することを学び、温かい先生方に支えられ勉強が大好きになりました。人間関係の難しさとともに人のやさしさと命の大切さを学びました。(卒業生の声)

親子の関係を修復

情緒不安定で息子の首に手をかけたことも一度や二度ではない日々でした。貝塚養護学校に出会い、そこで学べる素晴らしさ、安心して学校生活を送れる毎日、壊れる寸前だった親子の関係が修復されていくことを実感でき、うれしく思える昨今。息子の首に手をかけたあの日。思いとどまって良かったと、今、心から思います。(保護者の声)

4月募集停止の処置を強行

この貝塚養護学校閉校のうごき、卒業生や父母が反対運動に立ち上がり、すでに10万超もの署名を提出済み。しかし市教委は「在籍数が減り存続が困難」と、態度を変えていない。実態は、貝塚養護学校の存在を知らせず、問い合わせがあっても「対象にならない」と門前払い。

いじめ多発な今こそ必要な学校

他市にない優れた施設である。病気や不登校による長期欠席の子どもは、大阪市内の小中学生で四千数百人(府下で一万五千人超)。今こそ必要な学校であることはあきらかである。閉校であることはあきらかである。閉校であることはあきらかである。



校長から子ども達の状況を聞く姫野さん

11月4日告示、18日投票でたたかわれている大阪市長選。大阪市をよくする会の構成団体と地域連絡会は姫野浄さんを先頭に、くらしと福祉を守る運動に連日総力をあげています。各地の街頭演説では、かけよってきて、「年寄りいじめがエスカレートしている、やめさせて」と握手をもとめ、宣伝カーの下から姫野さんに声をかける市民など、参議院選挙で見られた新たな政治をもとめる世論は、引き継がれ強まっています。

市民の声が市政を動かす時代に

安部首相が政権を投げ出すほど、貧困と格差を広げる「改革」路線は破たんし、国民が政治を動かす新たな政治が始まっています。しかし、関市長は自民党・公明党の支持取りつけと公約修正に明け暮れ、政党枠組みに執着したうえ関西財界が強く要望する地下鉄民営化などの「改革」推進にやっきとなつていきます。これまでのオール与党、市民不在の大阪市政がさらにひどくなっています。この大阪で市民が主人公となる新たな市政実現が待ちのぞまれています。大阪市をよくする会は市民の声が市政を動かす時代にふさわしい大運動を展開しています。

市民要求の実現は可能です

姫野さんは一貫して西中島駐車場や旧芦原病院など同和利権を追及し、同和の闇にメス



が入られることになりました。また国保料、介護保険料などの引き下げ運動や敬老優待パスを守る運動、乳幼児医療の拡充運動の先頭に立って奮闘され、35年間の草の根議員活動の実績が要求実現への確信に変わりつつあります。今年度だけでも税金のムダづかいは400億円を超えています。この財源をつかえば国保料の引き下げ、30人学級の実現、中学校給食実施などを実現させることができます。市長が変われば、大阪は元気を取りもどせます。全国の新たな政治づくり、市民参加の市政づくりに大きく前進できるでしょう。

全市民に宣伝、100万人対話やりとりげよう

告示までに100万人対話、有権者100人あたり1回のメガホン宣伝、きめ細かな小集会をやりきろうと大阪市をよくする会はよびかけ、各地で奮闘が続いています。